

自己評価報告書(最終報告)

報告者

国際教育コース／小澤 大成

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

担当する教科専門の授業におけるこれまでの取り組み状況は以下である。
地学実験Ⅰ：授業の序論において小中学校の理数科カリキュラムのレビューを実施させ、実験内容と学校現場での実践を関連させている。またフレンドシップ授業により子どもとの触れ合いの機会を1年生に与え、以後の実習への意識向上を図っている。
地学実験Ⅱ：専門的な実験と中学校教科書にのっている実験を交えて授業を実施している。また偏光顕微鏡による観察を通じ、岩石鉱物標本を用いた実験を自信を持って実施できる基礎力をつけさせている。
本年度も理科カリキュラムとの関連づけや学校現場で応用可能な実験を取り混ぜ実践力向上を図る。

2. 点検・評価

地学実験Ⅰ：授業の序論において、学生をグループに分け小中学校の理数科カリキュラムにおける地学の内容についてレビューを実施した。そのあとで実験内容を紹介することで学校現場での実践を関連させた。またあすたむらんどにおけるフレンドシップ事業により子どもとの触れ合いの機会を1年生に与え、実習に関する意識向上を図った。学生は3月における学内シンポジウムにおいて自らの活動を振り返り、学習成果を報告した。
地学実験Ⅱ：専門的な実験と中学校教科書の実験を交えて授業を実施した。また偏光顕微鏡による観察を通じ、代表的造岩鉱物の識別が可能になり、岩石鉱物標本を用いた実験を自信を持って実施できる基礎力をつけることができた。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

国際教育コースの教育に関して以下の取り組みを行う。
1. 途上国の授業改善に資する教員指導者としての能力向上を図るため、KJ法を用いた課題分析や詳細な授業分析手法の導入・定着を図り、授業研究手法を導入する。
2. 全構成員が参加するセミナーにおいて多様な観点からの議論が行われるよう環境を整備する。

2. 点検・評価

1. 講義「国際教育教材開発研究」においてKJ法を用いた課題分析や詳細な授業分析手法の導入・定着を図り、途上国の授業改善に資する授業研究手法を導入することができた。
2. 前期・後期をつづいて全構成員が参加するセミナーを実施し、各国の教育事情、研究の進展状況や他大学の研究者による発表を組み、多様な観点からの議論を実施することができた。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

- (1) JICA研修の評価に関して質問票の開発やフォローアップ調査を進め、よりよい研修の在り方を探る。
- (2) 途上国の教員研修における授業研究の受容とその効果について調査を行う。
- (3) 学内外の研究資金公募に積極的に応募する。

2. 点検・評価

- (1) JICA研修の評価に関して研修事前事後における授業評価に関する質問票を開発しケニアおよび仏語圏アフリカの研修で実施した。またセネガル(仏語圏アフリカ)およびケニアでフォローアップ調査を実施することができ、教材の収集と共に研修員が本学で学んだことを伝達する様子や現地関係者との協議から次年度研修への展望を得た。
- (2) 途上国の教員研修における授業研究の受容とその効果について、科学研究費にかかわる調査の一環として9月に南アフリカ共和国ムブマンガ州において調査を実施した。
- (3) 学内の教育研究支援プロジェクト(分担者)および科学研究費補助金に申請を行い、教育研究支援プロジェクトの申請が分担者として採択された。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

- (1) 国際教育コースおよび教員教育国際協力センターの教員として本学の運営に協力する。

2. 点検・評価

- (1) 国際教育コースおよび教員教育国際協力センターの教員として、大学院学部教務委員会委員および国際交流委員会委員、センター会議構成員として運営に協力した。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- (1) JICA等の国際協力事業に貢献する。
(2) 公開講座や10年次研修で, 地域社会との連携・交流を積極的に行い, 社会に貢献する。

2. 点検・評価

- (1) 仏語圏アフリカ研修ではコースリーダーとして, ケニア研修・エチオピア研修では講師として研修実施に貢献した。
(2) 公開講座(5月21日)や10年次研修(8月21日)の講師として国際理解教育に関する講義を実施し, 地域社会との連携・交流を通じて, 社会に貢献した。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)